

飛騨農林事務所の普及活動状況（令和6年11月30日現在）

今月の重点活動

■夏秋トマト 農業普及活動全国研究大会で農林水産省農産局長賞を受賞

11月21～22日、国立オリンピック記念青少年総合センター（東京都渋谷区）で、第12回農業普及活動高度化全国研究大会が開催された。当日は、選考会（9月25～26日）で選ばれた、岐阜県を含む全国の優良8事例の発表が行われた。

農業普及課からは、岐阜県を代表して「環境データに基づく灰色かび病対策への取組み」と題し、令和3年度から生産者と連携して取り組んだデータ駆動型農業の実証について発表した。ハウス内環境の測定データに基づく灰色かび病発生危険度の予測と、危険度に応じた対策を実施したことで果実品質が向上し、産地基盤の強化につながったことを、実証成果として全国にPRした。審査の結果、岐阜県として14年ぶりとなる農林水産省農産局長賞を受賞することができた。

今後も農業普及課では、栽培履歴管理アプリや経営分析など、データを活用したきめ細かな生産者の経営支援を行っていく。



【優良事例の発表の様子】

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■担い手 「農業教育連絡協議会」開催される

11月20日、農業教育の発展と人材育成を目的として、農業教育連絡協議会が飛騨高山高校山田キャンパスで開催された。

当日は、飛騨高山高校職員、飛騨支部の指導農業士、青年農業士、女性農業経営アドバイザー及び飛騨農林事務所職員が参加し、学校農業クラブ連盟東海ブロック大会で最優秀賞を受賞した生徒の研究発表や各学科の取組み概要について紹介があり、生徒の農林業に対する思いや農業教育現場の現状について意見交換した。農業普及課からは、岐阜県方式による就農支援の特徴について説明し、指導農業士会、行政、JAなど、関係機関が一体となって担い手の育成と定着に取り組んでいることを紹介した。今後も地域の多様な担い手確保に向け、飛騨高山高校との連携の重要性を関係者一同が再確認した。

農業普及課では、12月13日に令和6年度新規就農者激励会の開催を予定しており、地域農業の維持、発展に欠かすことのできない新規就農者の育成と定着のため、引き続き関係機関と協力して活動していく。



【農業教育連絡協議会の様子】

■担い手 「外国人材確保対策セミナー」を開催

11月25日、高山市内のホテルにおいて、農業分野における外国人材確保対策セミナーを県農業経営課主催で開催した。

このセミナーは、農業分野において人材不足が深刻化する中、外国人材の確保が重要性を増しているため、外国人材の雇用を検討している農業者等を対象に開催し、飛騨管内から約80名の参加があった。

専門家による「外国人材の雇用制度と活用方法」、「外国人にも伝わりやすいやさしい日本語」の講義では、外国人材の受け入れに必要なノウハウについて学んだ。また、外国人を雇用している2名の農業経営者と、今年からトマト選果場に25名以上の外国人を雇用したJA担当者からの事例発表があり、参加者は言葉の違いや住居の確保、必要費用や雇用効果などについて熱心に聞き入っていた。セミナーの最後には、事例発表者等との意見交換や登録支援機関との個別面談があり、閉会時間の間際まで個人面談を希望する人が絶えなかった。

農業普及課では、今後も人材不足の解決策の一つとして、外国人材の雇用を検討している農業者に対して、登録支援機関と連携して外国人材の雇用確保を支援していく。



【事例発表の様子】

安心で身近な「ぎふの食」づくり

■パプリカ・ほうれんそう 「技術導入検討会」を開催

農業普及課では、パプリカ、ほうれんそうにおいて、「グリーンな栽培体系への転換サポート事業」を活用した環境負荷低減による持続可能な農業の実現に向けた取り組みを支援している。

11月27日、それぞれの品目で技術導入検討会を開催し、今年度の実証結果や来年度の取り組み内容について、生産者および関係機関で検討を行った。

パプリカでは、令和5年度から主に天敵を活用したIPM防除体系の確立を目指す実証を行っており、生産者からは「天敵活用により防除回数の削減が可能となり、化学合成農薬の削減や省力化の効果を実感できた。天敵で対応できない害虫の対策についても考えていきたい。」等の意見が挙げられた。

ほうれんそうでは、令和6年度からpH矯正や土壌中の病原菌密度のモニタリングによる土壌消毒剤の削減に向けた実証試験を行っており、生産者からは「環境に優しいほうれんそう栽培の実証試験に今後も協力したい。」等の前向きな意見が挙げられた。

農業普及課では、検討会での議論の内容を踏まえ、来年度の実証内容を整理するとともに、今後も持続可能な農業の実現に向けた取り組みを支援していく。



【検討会（パプリカ）の様子】



【検討会（ほうれんそう）の様子】

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■水稻 「清見町水稻勉強会」開催される

11月13日、高山市清見町において、水稻栽培の知識と技術の向上を目的とした水稻勉強会がJAひだ主催で開催された。

当日は、清見地域営農推進協議会の会員24名が参加し、肥料・農薬メーカーから、清見町での現地試験結果に基づいた、雑草防除薬剤の選定や施肥管理技術を学んだ。

農業普及課からは、以前から問題となっている葉いもち防除に焦点を絞り、清見町での気温や降水量等の調査データに基づいた防除時期や薬剤の提案を行った。参加者からは「既存の農薬でも適期を逃さず使用すればよいのではないか。」「気象データからその年の防除適期を教えてほしい」など、数多くの質問や要望が出され、参加者のいもち病に対する意識の高さを感じられた。

農業普及課では、引き続き関係機関と連携しながら、いもち病の適期防除に関する情報提供を通じて飛騨産米の高品質・安定生産に向けた支援を行っていく。



【水稻勉強会の様子】